

## Q熱ってどんな病気？

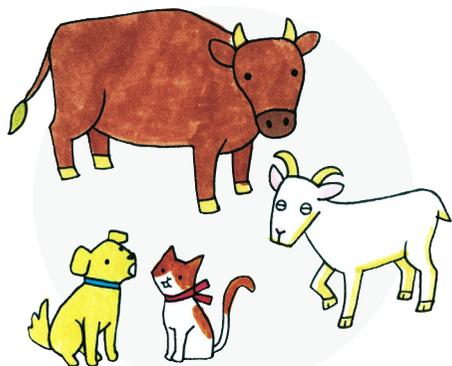
コクシエラ菌という細菌による  
ヒトと動物の共通感染症です

Q熱(コクシエラ症)は1935年に海外のと畜場で原因不明の発熱疾患が集団感染し、なかなかその正体がかめず“query fever”(正体不明の発熱疾患)と言う意味でQ熱と名づけられました。

80年代までは日本にはないといわれていましたが、その後、日本での存在が知られるようになり、近年は増加傾向にあるようです。

コクシエラ菌は、熱、乾燥、消毒剤に極めて強く、汚染された環境で長期間生存して感染源として持続します。

ヒトへの感染は野生動物や家畜およびその製品からと考えられていましたが、近年、イヌ・ネコなどからの感染が報告されています。



## 人獣共通感染症 (Zoonosis) から あなたを守るために

### ① 動物に咬まれたり引っかかれたりしない ように気をつけましょう

- 温かな動物を選んだり、正しいしつけをしましょう。
- 動物の爪を短くしておくとういでしょう。

### ② 過度の接触はいけません

- キスをしたり、一緒に寝ないようにしましょう。

### ③ 生肉をあたえないように

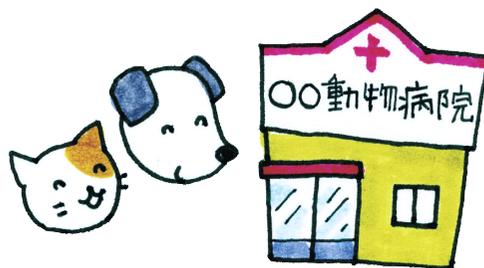
- 生の肉には病原体が入っていることがあります。加熱して与えるとよいでしょう。

### ④ 排泄物は適切に処理しましょう

- 排泄物は速やかに処理しましょう。その後の手洗いも忘れずに。

### ⑤ 定期的に検診を受けましょう

- 獣医師による定期的な検診で動物の健康を維持しましょう。また、ワクチンなどで予防できる疾病は予防しましょう。



2009年 日本小動物獣医師会  
人獣共通感染症委員会編  
<http://www.jsava.com/>

掲載記事・イラストの無断転載を禁じます

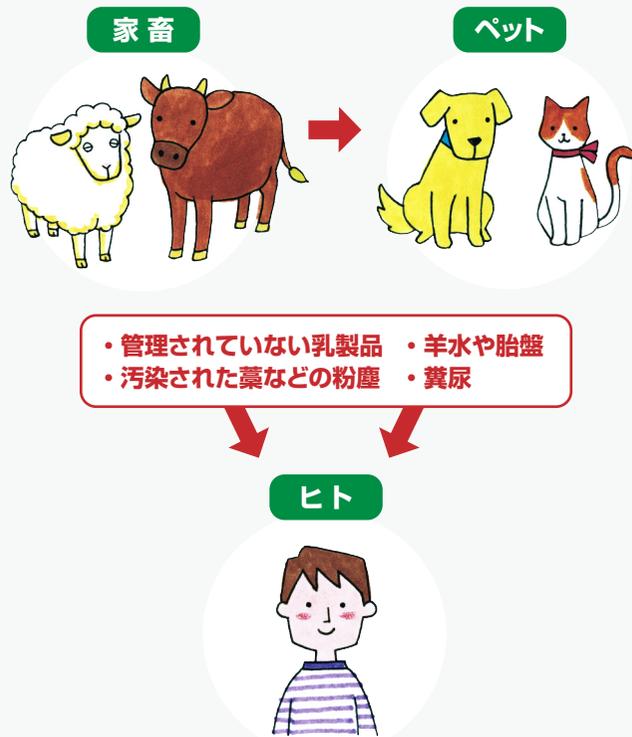
## Q 熱 (コクシエラ症)



# どのように感染するの？

Q熱はこうして感染します。

Q熱の原因菌であるコクシエラ菌は、野生動物の間でダニやシラミを介して保有されており、その環境中にヒトや家畜が入ることにより感染が拡がります。そして感染した家畜の胎盤や羊水、糞尿または管理されていない乳製品からヒトやイヌ・ネコなどに感染します。またコクシエラ菌は長期間環境中に生存し、汚染された糞などの粉塵を吸引することでも感染します。イヌ・ネコなどからも感染することがわかっていますが、ヒトからヒトへの感染はまずないと言われています。



マダニの駆除および死骸の取り扱い、その糞の始末にまで十分な対策が必要です

# ヒトや動物に感染するとどうなるの？

## ヒトの場合

### 症状

急性では、発症するとカゼやインフルエンザのような発熱、せき、頭痛などの症状があらわれますが、通常は2週間程度で回復します。慢性では肝炎、心内膜炎、壊死性気管支炎、まれに血管炎、多発性関節炎、胎盤炎などを起こすことがあります。海外では死亡例があります。また、慢性例では、長年続く疲労感、不定愁訴\*といわれるようなはっきりしない症状が続くことがあり、うつ病や適応障害とみなされていることがあります。

### 診断

動物との接触頻度が高く、上記のような症状がある場合は、Q熱を疑い、専門医の診察を受けましょう。細菌学的検査、抗体価の測定や遺伝子学的診断法があります。

### 治療

専門の医療機関にて治療します。適切な抗生物質の選択が重要です。

### 予防

動物飼育における衛生管理が基本です。動物ではQ熱に感染してコクシエラ菌を保有していても、外見では健康的に見えるので注意が必要です。



ふていしゅうそ  
※不定愁訴：  
疲労がとれない、よく眠れない、なんとなく体調が悪い、といった自覚症状のことをいいます。

## 動物の場合

### 症状

動物は感染し発症したとしても、初期に軽い発熱と鼻水程度の症状で、ほとんどは無症状です。しかし動物は無症状でも、乳汁や糞尿に病原体を排泄して感染源となる可能性があり、妊娠時に感染すると流産や死産を起こすことがあります。

### 診断

細菌学的検査、抗体値の測定や遺伝子学的診断法があります。

### 治療

治療法は獣医師に相談してください。適切な抗生物質を使用すれば治療は可能です。

### 予防

動物飼育における衛生管理が基本です。お産に立ち会う時や、普段の掃除の時には、マスクや防水手袋を着用しましょう。海外ではワクチンが開発され実用化しています。